

I. 大阪府生物多様性地域戦略に基づく主な取組状況

目標及び取組方針

2023年度の主な取組状況

2024年度の主な取組予定

【目標1】

- ①自然の恵みに関する意識の向上
- ②自然環境に配慮した行動の推進

【取組方針1】

生物多様性の理解と
生物多様性に資する行動の促進

- 生物多様性の情報発信ツール「おおさか生物多様性なび（仮称）」に係るコンテンツ作成
- 府内の生物多様性関連施設等と連携した普及啓発の実施
 - ・生き物や自然関係イベントを取りまとめた府民向けチラシを作成
 - ・施設等と共催で普及啓発イベント「いきものみどり つながる・つなげるフェスティバル」開催【写真1】
 - ・「おおさかもん祭り」や「大阪自然史フェスティバル2023」でのブース出展
- 府民の森や府営公園、水辺における各種プログラムの提供
 - ・出前講座・自然観察会等の開催（計299回、1万1千名以上参加）

【写真1】



- 「おおさか生物多様性なび（仮称）」の制作及び広報の実施
- 府内の生物多様性関連施設等と連携した普及啓発の実施
- 府民の森や府営公園、水辺における生き物観察会等、各種プログラムの提供
- 生物多様性研修プログラムの改訂及び教員・社員等への研修の実施

【目標2】

- ①自然環境の持続的な保全の推進
- ②事業者等と連携した保全活動の推進
- ③特定外来生物の防除の推進

【取組方針2】

自然資本の持続可能な利用、
維持・充実

- 多様な主体と連携した森・里・川・海における取組みの推進
 - ・間伐等の森林整備、木材利用の促進、関係団体と連携した里地里山の保全
 - ・野生鳥獣のモニタリング調査・捕獲の実施、農空間の保全と活用の促進
 - ・多自然川づくりを取り入れた河川工事の実施、臨海部における自然環境の創出
 - ・大阪湾窪地の埋戻しの実施、民間事業者と連携した藻場造成の開始 等
- 「おおさか生物多様性応援宣言」（※1）の登録開始（2023年度末 約80団体）
記念シンポ「生物多様性応援宣言はじめました」開催（2023.8開催、97名参加）
- 気候変動に対する取組の推進
 - ・脱炭素ポイント制度の実施、条例に基づく大規模事業者の取組みの促進
- 外来生物に係る啓発及び特定外来生物の防除の推進
 - ・「大阪府特定外来生物アラートリスト」の公表（2023.6）
 - ・クビアカツヤカミキリに係る防除対策研修会開催、被害調査の実施、防除推進計画の改定

※1 生物多様性保全に取組む企業・団体に取組内容を宣言（登録）いただき、府がPRを行う制度



- 多様な主体と連携した森・里・川・海における取組みの推進
- 「おおさか生物多様性応援宣言」登録制度の周知に努め、登録者の拡大を図るとともに、登録者間の交流促進等、取組支援を実施
- 外来生物に係る啓発及び特定外来生物の防除の推進
 - ・クビアカツヤカミキリに関する取組みの強化



【目標3】

- ①市町村や保全団体等と連携したモニタリング体制の構築

【取組方針3】

生物多様性保全に資する
仕組みづくりの推進

- 大阪府HP上で府内の生き物や自然環境についてのリーフレット・冊子類や調査資料等を紹介した「大阪府いきもの資料館」公表（2023.9）
- 「自然共生サイト」（環境省）への関係保全地「多奈川ビオトープ」（岬町）の登録について関係機関との調整を進め、認定を受けた（府内では計6サイトが登録済み）
- 生物多様性保全に資する調査研究の推進（外来生物の被害対策等）



- 「大阪府いきもの資料館」公表資料の拡充
- 「自然共生サイト」認定に向けた支援
- レッドリスト改訂に向けた検討、府内の希少種保全への機運醸成
- 生物多様性保全に資する調査研究の推進

II. 大阪府生物多様性地域戦略部会（R6.7.31）における検証

2023年度の実績及び2024年度の実績を踏まえて検証。

- 【目標1】市町村の生物多様性地域戦略策定の働きかけ（現在5市町村）に取り組まれた。
- ・2024年度に制作中の情報発信ツールは、自然環境に配慮した行動を、府民自らが考えながら選択できる内容となるよう検討されたい。
- 【目標2-①】関西圏の広域連携による森・里・川・海の保全を継続されたい。
- ・生物多様性増進活動促進法（R7.4施行）でのOECD・自然共生サイトに関する情報収集に努め、府内での認定支援をされたい。
- 【目標2-②】「おおさか生物多様性応援宣言」制度において団体間のマッチングや、施設・活動の評価支援などメリットとされるサポート体制を構築されたい。
- ・「おおさか生物多様性応援宣言」参画団体を拡大し、自然環境保全につながるよう運用されたい。
- 【目標2-③】外来生物の正しい知識の普及啓発を進められたい。
- ・特にクビアカツヤカミキリ対策については、薬剤による在来種等の自然環境への影響も考慮のうえ、防除を進められたい。
- ・クビアカツヤカミキリ対策に限らず、生物多様性施策全般においても市町村や他部局の理解は重要であり、連携を強化されたい。
- 【目標3】レッドリスト改訂を進められたい。
- ・府内の生き物や自然環境について府HP上にデータ集積した「大阪府いきもの資料館」について市町村以外からも情報収集し、データを拡充されたい。

モニタリング指標（※3）

モニタリング指標	基準値 (2020年度)	2023年度
自然環境に配慮した行動をする府民の割合	18.6%	18.3%
連携した取組を行う事業者・団体数	299 事業者・団体	310 事業者・団体
府内で確認された特定外来生物のうち必要な対策がなされた割合	28.1% (9種/32種)	29.4% (10種/34種)
法令等に基づく地域指定の割合	24.6% (46,930ha / 190,532ha)	24.6% (46,942ha / 190,532ha)

※3 取組内容を検証する際に活用する指標